

# HP Operations Orchestration

Windows および Linux オペレーティングシステム 向け

ソフトウェアバージョン: Content Pack 11

## リリースノート

ドキュメントリリース日: 2013 年 2 月

ソフトウェアリリース日: 2013 年 2 月



## ご注意

### 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインターフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

---

# 目次

リリースノート .....	1
目次 .....	5
概要 .....	7
新機能 .....	7
統合 .....	7
HP Fortify .....	7
HP ArcSight .....	7
Ant .....	8
Groovy .....	8
サポートされているバージョン .....	9
HP SiteScope .....	9
HP Operations Manager i .....	9
Windows PowerShell .....	9
Microsoft .NET Framework .....	9
VMware vCloud Director .....	9
VMware vSphere .....	9
Microsoft Windows .....	9
Microsoft SQL Server .....	10
HP Network Automation .....	10
Microsoft System Center .....	10
機能拡張 .....	10
システム評価子 .....	10
VMware vCloud 統合 .....	10
VMware vSphere 統合 .....	11
OO Content Pack 11 のインストール .....	13
ローカル Central Server への OO Content Pack 11 のインストール .....	13
Windows .....	13

Linux .....	14
リモート Central Server への OO Content Pack 11 のインストール .....	16
Windows .....	16
Linux .....	16
既知の問題 .....	18
修正された不具合 .....	22

# 第1章

---

## 概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Content Pack 11 で行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。これは英語版と日本語版のリリースです。

OO Content Pack 11 は累積的なコンテンツパックであり、リポジトリとRAS が更新されます。この更新でオペレーションやフローが削除されることはありません。パッチで行われるのは、特定のコンテンツの場所の追加、修正、変更だけです。

## 新機能

### 統合

#### HP Fortify

「**Library/統合/Hewlett-Packard/Fortify**」フォルダーにある HP Fortify 統合は、Fortify Security Center Suite からの2つのコンポーネントの統合に基づいています。

- Static Code Analyzer (SCA)
- Software Security Center (SSC)

SCA はソースコードリポジトリのスキャンに使用するツールで、結果は **.fpr** (Fortify プロジェクト) ファイルに保存されます。

SSC は、サーバーコンテナ (Tomcat など) にデプロイされた Java Web アプリケーションで、次のことが実行できます。

- プロジェクトの管理。
- 問題の監査。
- 異なるパフォーマンスインジケータを使用したレポートの生成。

サポートされているバージョンは 3.50 です。

#### HP ArcSight

HP ArcSight 統合 (**Library/統合/Hewlett-Packard/ArcSight** フォルダー内) を使用すると、ArcSight と統合される HP Operations Orchestration (OO) フローを作成できます。

HP ArcSight 統合は、ArcSight ESM REST API を使用して OO と統合します。API にアクセスするには、一般的な「**ArcSight 情報の取得**」オペレーションから、『*ESM Service Layer Developers Guide*』の仕様に従って HTTP GET メソッドを実行します。

サポートされているバージョンは 6.0c です。

## Ant

「**Library/Operations/Ant**」フォルダーには、さまざまなプロトコルを使用してターゲットホストに接続し、ANT コマンドをローカルまたはリモートでビルドして実行できるフローが含まれています。フローは次のとおりです。

- Ant コマンドのビルド
- Ant スクリプト

「**Ant コマンドのビルド**」フローを使用すると、指定された情報を使用して Ant コマンドをビルドできます。

「**Ant スクリプト**」フローを使用すると、Ant コマンドをビルドして実行できます。実行する Ant コマンドか、またはコマンドのビルド元の実行情報セットのいずれかを指定できます。OO から変数を **Ant スクリプト** に投入できます。

**Ant スクリプト** を実行するには、ターゲットマシン上でコマンドラインプロセスを起動して、Ant コマンドを実行します。

Ant コマンドの構文は次のとおりです。

```
ant <target> -f <buildFile> -Dproperty1=propVal1 ... -  
DpropertyN=propValN -argument1 argVal1 ... -argumentM argValM
```

コマンドを実行するためにターゲットホストで起動されたプロセスは、「**Library/Operations/リモートコマンド実行/リモートコマンド**」オペレーションを使用します。次のプロトコルが使用できます。

- Local: RAS ホスト上でスクリプトを実行する場合です。
- WMI: Windows ターゲットホストおよび Windows RAS 用です。
- SSH: Windows および Linux ターゲットホストの両方および RAS 用です。Windows では、SSH は別途インストールする必要があります。

## Groovy

「**Library/Operations/Groovy/Groovy スクリプト**」オペレーションを使用すると、Groovy スクリプトを直接またはファイルから実行できます。オペレーションは Groovy 2.0.2 API を使用します。

Groovy スクリプトをファイルから読み込むには、スクリプトが含まれているファイルのローカルパスまたは UNC パスを指定する必要があります。ファイルがリモートの共有の場所にある場合は、次のことを確認する必要があります。

- RAS ホストとリモートホストが同じドメインにあること。
- RAS を実行するドメインユーザーは、共有の場所に含まれるファイルの読み取りのアクセス許可を持っている必要があります。

Groovy スクリプトで OO の変数を使用できること。これには次の手順を実行します。

- Groovy 変数の名前を持つ入力をステップに追加します。
- Groovy スクリプト内で初期化された変数と同じようにスクリプト内で変数を使用します。
- 実行時には、Groovy 変数に OO 変数の文字列値が入ります。



## サポートされているバージョン

### HP SiteScope

HP SiteScope バージョン 11.13 のサポートが追加されました。

### HP Operations Manager i

Operations Manager i バージョン 9.12、9.13、9.20、9.21 のサポートが追加されました。

### Windows PowerShell

Windows PowerShell バージョン 3 のサポートが追加されました。  
Windows PowerShell 3.0 の新機能をすべて使用できます。例えば以下の機能を使用できます。

- PowerShell ワークフロー: 長時間タスクを実行できるようになり、タスクの繰り返し実行、並列実行、再開、中断、定期実行が可能になります。
- コマンドレットの検出およびモジュールの自動ロード: コンピューターにあるコマンドレットを検索して実行できます。

PowerShell 3 の詳細については、Microsoft 公式サイトを参照してください。

### Microsoft .NET Framework

Microsoft .NET Framework バージョン 4.0、4.5 のサイドバイサイド構成でのサポートが追加されました。サイドバイサイド構成では、RAS サーバーに、.NET Framework の以前のバージョンと .NET Framework 4.0 または 4.5 を一緒にインストールする必要があります。  
推奨する構成は、.NET Framework 4.0 または 4.5 がインストールされているサーバーに、.NET Framework 3.5 SP1 または .NET Framework 3.5 (.NET Framework の以前のバージョンが含まれています) をインストールすることです。  
.NET Framework の Full と Client Profile の両方のバージョンがサポートされます。

### VMware vCloud Director

VMware vCloud Director バージョン 5.1 のサポートが追加されました。

vCloud アクションが格納されている vCloud.jar ファイルの名前が、vCloud5.x.jar に変更されました。

### VMware vSphere

VMware vSphere バージョン 5.1、5.0 アップデート 1 のサポートが追加されました。

### Microsoft Windows

Microsoft Windows バージョン 2012 のサポートが追加されました。

## Microsoft SQL Server

Microsoft SQL Server バージョン 2012 のサポートが追加されました。

## HP Network Automation

Network Automation バージョン 9.20 のサポートが追加されました。

## Microsoft System Center

- System Center Configuration Manager バージョン 2012 のサポートが追加されました。
- System Center Operations Manager バージョン 2012 のサポートが追加されました。
- System Center Orchestrator バージョン 2012 のサポートが追加されました。
- System Center Virtual Machine Manager バージョン 2012 のサポートが追加されました。

## 機能拡張

### システム評価子

「構成」フォルダーに、新しいシステム評価子「**windows 正規パス**」が追加されました。  
正規パス評価子は、Windows の正規パスを表す入力を検証するのに役立ちます。

## VMware vCloud 統合

次のオペレーションが追加されました。

- 「**Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/VM/VM の電源をオン**」オペレーションを使用すると、vApp の仮想マシンの電源をオンにできます。
- 「**Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/VM/VM の電源をオフ**」オペレーションを使用すると、vApp の仮想マシンの電源をオフにすることができます。
- 「**Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/VM/VM のコンピューター名の設定**」オペレーションを使用すると、vApp の仮想マシンのコンピューター名プロパティの値を設定できます。
- 「**Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/VM/VM の CPU 数の設定**」オペレーションを使用すると、vApp の仮想マシンの CPU の数を変更できます。
- 「**Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/VM/VM メモリサイズの設定**」オペレーションを使用すると、vApp の仮想マシンのメモリサイズを変更できます。
- 「**Library/統合/VMware/VMware vCloud/組織/組織のタスクの取得**」オペレーションを使用すると、指定された組織のタスクの一覧を取得できます。
- 「**Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/vApp の再構成**」オペレーションを使用すると、vApp の再構成 (仮想マシンの追加または削除) をサポートできます。

次のオペレーションが機能拡張されました。

- 「Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/VM/VMの詳細の取得」オペレーションの結果が新しくなり、Primary NIC、Computer Name、vmIDになりました。
- 「Library/統合/VMware/VMware vCloud/vApp/vAppの取得」オペレーションに、新しいID結果 jsVAppIds が追加されました。
- 「Library/統合/VMware/VMware vCloud/カタログ/vApp テンプレートの取得」オペレーション、新しいID結果 jsTemplateIds が追加されました。
- 複数のオペレーションに taskId 結果が追加されました。

「Library/統合/VMware/VMware vCloud/組織/組織 vDCs/ネットワーク」フォルダーに、次のオペレーションが追加されました。

- 「直接組織 vDC ネットワークの作成」は、外部ネットワークに直接接続された組織 vDC ネットワークを作成します。
- 「組織 vDC ネットワークの取得」は、組織の vDC ネットワークのリストを取得します。
- 「組織 vDC ネットワークの削除」は、組織の vDC ネットワークを削除します。

## VMware vSphere 統合

次のオペレーションとフローが追加されました。

- 「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成/VMのディスクの拡張」は、仮想マシンのハードディスクのサイズを拡大します。
- 「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/仮想マシンの名前を変更」は、既存の仮想マシンの名前を変更します。
- 「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成/ビデオカードの編集」は、仮想マシンのビデオカードのオプションを変更します。
- 「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成/VMのすべてのハードディスクの取得」は、仮想マシンに仮想接続されたハードディスクに関する情報を取得します。
- 「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/データストア/データストアのプロビジョニングされた領域の取得」は、データストアのプロビジョニングされた領域を返します。

「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/データストア/データストア」フォルダーに、次のオペレーションが追加されました。

- 「データストア/データストアの取得」は、データセンターのすべてのデータストア/データストアに関する情報か、名前が指定されている場合は特定のデータストア/データストアに関する情報を返します。
- 「データストア/データストアの名前の変更」は、既存のデータストア/データストアの名前を変更します。

管理対象オブジェクトのIDを含む結果が追加されました。次に示すのは、変更されたオペレーションまたはフローの名前と、追加された結果の一覧です。

- Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/VM フォルダーの作成 - folderID

- Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/リソースプール/リソースプールの作成 - respoolID
- Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/サンプル/仮想マシンのクローン作成 - vmID
- Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/サンプル/仮想マシンの作成 - vmID

「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成/VM上のNICの構成」オペレーションに、次の2つのオプションのブール値入力が増加されました。

- connect - NIC をネットワークに接続するかどうかを指定します。実行中のVMにのみ適用されます。
- connectAtPowerOn - VM の起動時に NIC をネットワークに接続するかどうかを指定します。

## 第2章

---

# OO Content Pack 11 のインストール

OO Content Pack 11 は、既存の OO プラットフォームバージョン 9.00.02 またはそれ以降にインストールする必要があります。

OO Content Pack 11 は、既存の OO Content Pack 9 LP コンテンツインストール上にインストールできます。プラットフォーム 9.00 と、次の表に記されているパッチを使用してください。

コンテンツ	パッチレベル
OO Content Pack 11	9.00.02
OO Content Pack 11	9.05.0001
OO Content Pack 11	9.07

Content Pack を適用する前に、すべてのコンテンツをチェックインする必要があります。

既存の OO 11 バージョンの上から OO Content Pack 9 LP をインストールした後で、OO 9.00 を再インストールした場合は、OO Content Pack 11 も再インストールする必要があります。

OO Content Pack 11 をインストールするには、Java 6 を使用する必要があります。OO に付属する Java JRE (<OO\_HOME>/jre1.6 フォルダ) を使用することをお勧めします。

OO Content Pack 11 は、ローカル Central Server またはリモート Central Server にインストールできます。

## ローカル Central Server への OO Content Pack 11 のインストール

### Windows

1. Studio を終了し、Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。
3. 左側の [Operations Orchestration Content Packs] をクリックします。[Operations Orchestration Content Packs] ボックスで、[Content] をクリックします。[HP Operations Orchestration 9.00] をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 11] に移動します。
4. OO Content Pack 11 のインストーラー OO\_Content\_Pack\_11\_Installer.jar を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. [スタート] メニューをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
6. [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスで、「cmd」と入力して [OK] をクリックします。

7. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが **PATH** 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralPassword  
<Central のパスワード> -locale ja
```

8. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

**メモ:**

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 11 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
  - a. **[スタート]** メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]** の順に選択します。
  - b. **[コマンド プロンプト]** を右クリックし、**[管理者として実行]** オプションを選択します。
- Central のユーザー名にデフォルトの **admin** 以外を使用している場合は、上記手順の**ステップ 7** のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralUsername <デフォルト  
以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -locale  
ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralUsername sysadmin  
-centralPassword mypassword -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで OO Content Pack 11 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 7** で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の  
Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralURL  
https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -locale ja
```

- オペレーションのバージョン間に競合があっても OO Content Pack 11 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 7** のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -forceInstall -  
centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -forceInstall -  
centralPassword mypassword -locale ja
```

## Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、**RSCentral** と **RSJRAS** の各サービスのステータスを確認します。

2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。
3. 左側の [Operations Orchestration Content Packs] をクリックします。[Operations Orchestration Content Packs] ボックスで、[Content] をクリックします。[HP Operations Orchestration 9.00] をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 11] に移動します。
4. OO Content Pack 11 のインストーラー `OO_Content_Pack_11_Installer.jar` を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. ターミナルを開きます。
6. JVM ディレクトリ内の `bin` サブディレクトリが `PATH` 環境変数に追加されていることを確認します。`cd` コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralPassword  
<Central のパスワード> -home <OO インストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

7. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

**メモ:**

- Central のユーザー名にデフォルトの `admin` 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 6 のコマンドで、`-centralUsername` パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralUsername <デフォルト  
以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -home  
<OO のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralUsername sysadmin  
-centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

- デフォルトポートの `https://localhost:8443` 以外のポートで OO Content Pack 11 をインストールする場合は、上記手順のステップ 6 で、`-centralURL` パラメーターを使って次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の  
Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のイン  
ストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralURL  
https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -home  
/root/OO_HOME -locale ja
```

- オペレーションのバージョンの間に競合があっても OO Content Pack 11 をインストールする場合は、上記手順のステップ 6 のコマンドで、`-forceInstall` パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -forceInstall -  
centralPassword <Central のパスワード> -home <OO インストール先フォルダーのパス> -  
locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -forceInstall -
centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

## リモート Central Server への OO Content Pack 11 のインストール

ローカルにインストールされた Central が必要です。

### Windows

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。
3. 左側の [Operations Orchestration Content Packs] をクリックします。[Operations Orchestration Content Packs] ボックスで、[Content] をクリックします。[HP Operations Orchestration 9.00] をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 11] に移動します。
4. OO Content Pack 11 のインストーラー `OO_Content_Pack_11_Installer.jar` を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. [スタート] メニューをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
6. [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスで、「cmd」と入力して [OK] をクリックします。
7. JVM ディレクトリ内の bin サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralURL <リモート
Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

8. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

#### メモ:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 11 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
  - a. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順に選択します。
  - b. [コマンド プロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] オプションを選択します。

### Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。
3. 左側の [Operations Orchestration Content Packs] をクリックします。[Operations Orchestration Content Packs] ボックスで、[Content] をクリックします。[HP Operations



**Orchestration 9.00]** をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 11] に移動します。

4. OO Content Pack 11 のインストーラー **OO\_Content\_Pack\_11\_Installer.jar** を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. **ターミナル**を開きます。
6. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが **PATH** 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_11_Installer.jar -centralURL <リモート  
Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

7. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

## 第3章

### 既知の問題

タイトルと QC ID	説明
F5 統合 QCCR1D85010	F5 統合では、英数字以外のパスワードはサポートされません。これは、パスワードがHTML GET 文字列内に配置されるためです。英数字以外の文字を使用するとGET 文字列が無効になるため、英数字以外の文字はパスワードに使用できません。
「割り当て先の更新」オペレーション QCCR1D131214	「Library/統合/Hewlett-Packard/Network Node Manager/9.0/インシデント/割り当て先の更新」オペレーションが、Cannot interrogate model 例外を生成して失敗します。本来は、オペレーションは成功を返し、assignTo の値は入力値として指定された値に変更されるはずですが。
「Get」および「Put」オペレーション QCCR1D132829	「Library/Operations/リモートファイル転送/FTP/Get」および「Library/Operations/リモートファイル転送/FTP/Put」オペレーションは、type 入力に無効な値を指定しても正常に完了します。
「割り算」オペレーション QCCR1D135408	「Library/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子/割り算」オペレーションは、0による除算が発生しても成功し、結果は無限大になります。オペレーションが修正され、除数が0かどうかを確認するようになりました。除数が0の場合、オペレーションは失敗します。
「割り算」オペレーション QCCR1D135409	「Library/ユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子/割り算」オペレーションを使用して0.0を0.0で割ると、オペレーションはBigInteger divide by 0 というメッセージを出して失敗します。
RepositorySync プラグインの includePaths の説明 QCCR1D138276	Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/リポジトリフォルダーの RepositorySync プラグインの includePaths (含めるパス)に関する説明は、もっとわかりやすくする必要があります。includePaths は、実際には OS のシステムストレージパスではなく、リポジトリのルートからの論理的オフセットを表しているためです。たとえば、My Ops Flows の下にあるすべてのフローを含めるには、入力は Library/My Ops Flows とする必要があります。excludePaths (除外するパス)についても、これと同じ説明を適用する必要があります。
「システムアカウントの設定」および「システムプロパティの設定」オペレーション QCCR1D138282	新しいシステムアカウントを作成してチェックインした場合に、システムアカウントのユーザー名とパスワードの値が空であると、どのフローでもこれらの値を使用できません。このため、「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/システムアカウントの設定」オペレーションを使用することで、OO フローを実行してシステムアカウント値をリアルタイムで作成することはできません。「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/システムプロパティの設定」オペレーションに関しても、同じ動作が見つかっています。

タイトルと QC ID	説明
「Base64 デコーダー」オペレーション QCCR1D138299	「Library/ユーティリティオペレーション/Base64 デコーダー」オペレーションは、data 入力の値に無効な非 ASCII 文字列が含まれていても、characterSet 入力の値が ASCII または shift-JIS の場合は success を返します。本来ならオペレーションは失敗するはずです。
「すべてのアクティブ VM のホストからの移行」フロー QCCR1D140086	「Library/統合/Linux KVM/サンプル/すべてのアクティブ VM のホストからの移行」フローが正常に実行されません。
「スケジュール詳細情報の取得」オペレーション QCCR1D145511	「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジュール詳細情報の取得」オペレーションは、OO 9.03 に対してローカルリポジトリから実行すると失敗します。これは、スケジューラーと Central の統合時に OO 9.03 で行われた変更によるものです。
「フロースケジュールの取得」オペレーション QCCR1D145513	「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フロースケジュールの取得」オペレーションは、OO 9.03 に対してローカルリポジトリから実行すると失敗します。これは、スケジューラーと Central の統合時に OO 9.03 で行われた変更によるものです。
「フロースケジュールの削除」オペレーション QCCR1D145514	「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フロースケジュールの削除」オペレーションは、OO 9.03 に対してローカルリポジトリから実行すると失敗します。これは、スケジューラーと Central の統合時に OO 9.03 で行われた変更によるものです。
「フローのスケジュール」オペレーション QCCR1D145676	「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フローのスケジュール」オペレーションは、OO 9.03 に対してローカルリポジトリから実行すると失敗します。これは、スケジューラーと Central の統合時に OO 9.03 で行われた変更によるものです。
OO サンプルのセルフ統合 QCCR1D145994	説明に記載されているように、「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フローの実行/サンプル/フロー実行のステータスによるフィルター」フローと「Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フローの実行/サンプル/前回の実行ステータスの取得」フローは、Central からのみ実行できます。Studio からは実行できません。ただし、Central ではフォルダーの場所 (Library/統合など) が表示されません。  フローを実行するには、コマンドラインツール (JRSFlowInvoke.jar など) を使用する必要があります。あるいは、これらのフローをリポジトリ内の別の場所にコピーすれば、Central で実行することができます。
「テンプレートの再デプロイ」オペレーション QCCR1D149698	「Library/統合/Hewlett-Packard/SiteScope/9.x および 10.x および 11.00/テンプレートの再デプロイ」オペレーションは、ターゲットパスが無効であると、NullPointerException を生成して失敗します。

タイトルと QC ID	説明
「アプリケーションバージョンの取得」および「アプリケーションの取得」オペレーション QCCR1D150316	「Library/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/アプリケーションバージョンの取得」オペレーションは、applicationId 入力を空のままにしておく と、NullPointerException を生成して失敗します。  「Library/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/アプリケーションの取得」オペレーションは、filterBy に byApplicationId を割り当てて、value に不具合説明の値を割り当てると、NullPointerException を生成して失敗します。
「不具合リンクの読み取り」フロー QCCR1D150691	「Library/統合/Hewlett-Packard/Application Lifecycle Management/不具合/不具合リンクの読み取り」フローは、defectLinks 結果フィールドの値を返しません。  これは ALM 11.0 で発生する問題であり、ALM 11.5 で修正されたため、将来のリリースのドキュメントには記載されません。
「テストの読み取り」フロー QCCR1D150709	「Library/統合/Hewlett-Packard/Application Lifecycle Management/テスト計画/テストの読み取り」フローは、useLabels が true に設定されている場合と false に設定されている場合とで異なる結果を返します。
9.00.06 Balco_LP パッチエラー QCCR1D150923	9.00.06 Balco_LP パッチをインストールする際に、「Can not find object」というエラーメッセージが表示されます。
iLO4 ユーザー名 QCCR1D151935	「Library/統合/Hewlett-Packard/Proilant iLO/ユーザーの作成」および「Library/統合/Hewlett-Packard/Proilant iLO/ユーザーの削除」オペレーションでは、ローカライズされた (英語以外の文字を含む) ログオン名およびユーザー名を持つ iLO4 ユーザーの入力はサポートされていません。
「Ant スクリプト」フロー QCCR1D154222	「Library/Operations/Ant/Ant スクリプト」フローの timeout 入力値は、結果を返す場合に考慮されません。
「トポロジの実現されたプラットフォームへのデプロイのトリガー」オペレーション QCCR1D155726	「Library/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ/トポロジの実現されたプラットフォームへの配布のトリガー」オペレーションは、deploymentName と deploymentSetId の各入力に無効な値を指定しても成功しますが、展開は CDA 側の NullPointerException で失敗します。
「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーション QCCR1D155731	「Library/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ/実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーションは、realizedTopologyId 入力に間違った値が指定されると、失敗するのではなく、結果を返さずに成功します。

タイトルと QC ID	説明
「コネクタのリスト」フロー QCCR1D155796	「Library/統合/Hewlett-Packard/ArcSight/サンプルコネクタのリスト」サンプルフローは、シナリオがネガティブな場合にエラーメッセージを返しません。
Windows のエラーメッセージ QCCR1D156392	ユーザー名とパスワードの入力が正しくない場合、「Library/Operations/ファイルシステム/Windows のみ」フォルダーのオペレーションと、「Library/Operations/オペレーティングシステム/Windows/ping」および「経路探索」オペレーションは、Windows 2012 と Windows 2008 R2 とで異なるエラーメッセージを表示します。
vCloud のエラーメッセージ QCCR1D157090	vCloud 5.1.x および vCloud 1.5 サーバーは、vCloud 1.0 サーバとは異なるエラーメッセージを返します。
「ホストからのデータストアの削除」オペレーション QCCR1D157920	dataStore 入力に無効な値を指定して実行すると、「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/ホスト/ストレージ/ホストからのデータストアの削除」オペレーションは、vSphere 5.1 以前に対して使用された場合とは異なるメッセージを返します。
「仮想マシンのアンドウディスクの無効化」フロー QCCR1D158218	「Library/統合/Microsoft/System Center Virtual Machine Manager/仮想マシン/仮想マシンのアンドウディスクの無効化」フローは、SCVMM バージョン 2012 に対して実行すると失敗します。これは、SCVMM 2012 では DisableUndoDisk-VM Powershell コマンドレットが非推奨であるためです。
vCloud エンティティ作成時の非 ASCII 文字 QCCR1D158303	OO を使用して、名前に日本語文字が含まれる vCloud エンティティを作成すると、vCloud で表示される文字が文字化けします。
SCVMM のエラーメッセージ QCCR1D159032	owner 入力に無効な値を指定して実行すると、「Library/統合/Microsoft/System Center Virtual Machine Manager/仮想マシン/仮想マシンの設定」、「Library/統合/Microsoft/System Center Virtual Machine Manager/ハードウェアプロファイル/ハードウェアプロファイルの新規作成」、「ハードウェアプロファイルの設定」の各フローは、SCVMM 2012 では SCVMM 2008 R2 とは異なるエラーメッセージを返します。
SCVMM のエラーメッセージ QCCR1D159236	template、networkUtilization、cpuMax のいずれかの入力に無効な値を指定して実行すると、フローは、SCVMM 2012 では SCVMM 2008 R2 とは異なるエラーメッセージを返します。
System Center Orchestrator 認証設定 QCCR1D159369	「Library/統合/Microsoft/System Center Orchestrator」フォルダーのオペレーションは、ローカルユーザーを使用し、ドメインにホストを含めて実行すると失敗します。
I18N (ALM 統合) QCCR1D159369	ALM 統合では I18N はサポートされていません。統合では英語版の ALM を使用してください。

## 第4章

### 修正された不具合

次の項目は、現在のソフトウェアリリースで修正済みです。修正された不具合の参照番号は、QCCR (Quality Center Change Request) ID です。

修正された不具合の詳細については、HP Software Support Online を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

タイトルと QC ID	説明と修正
「ファイルシステム」オペレーションの入力値として DFS 名前空間パスの指定をサポート QCCR1D138097	<p><b>説明:</b> 「<b>Library/Operations/ファイルシステム</b>」オペレーションは、&lt;source&gt; 入力のパスが IPC\$ 共有の場所を表す場合に限り、入力値として DFS パスをサポートします。これはリモートの偽装に必要です。これはドキュメントのソースでは指定されません。</p> <p><b>修正:</b> 次のノートが「<b>Library/Operations/ファイルシステム</b>」フォルダーのプロパティに追加されました。"&lt;source&gt; 入力パスが IPC\$ 共有の場所を表す場合に限り、入力値として DFS パスをサポートします。これはリモートの偽装に必要です。ドメイン内部の共有の場所を示す DFS リンクを使用する場合、IPC\$ の共有の場所は利用できないため、オペレーションは失敗します。IPC\$ の共有の場所が存在するかどうかを確認するには、'net view &lt;\\path&gt; /all' コマンドを使用します。"</p>
vCloud vApp 認識 QCCR1D140682	<p><b>説明:</b> vCloud は、名前に日本語文字が含まれている vApp を認識できません。</p> <p><b>修正:</b> vCloud 統合で日本語文字がサポートされます。</p>
SiteScope の「リモートサーバーの削除」オペレーション QCCR1D141306	<p><b>説明:</b> SiteScope のリモートサーバー統合からホストを削除するためのオペレーションはありません。</p> <p><b>修正:</b> SiteScope 統合には、「<b>Library/統合/Hewlett-Packard/SiteScope/9.x および 10.x および 11.00/リモートサーバーの削除</b>」オペレーションが含まれます。</p>
vCloud 統合内の非 ASCII 文字 QCCR1D141410	<p><b>説明:</b> vCloud 統合内では非 ASCII 文字はサポートされません。vCloud は名前に日本語文字が含まれる VM を認識できません。vCloud オペレーションが入力として日本語文字を受け取ると、次のエラーメッセージが表示されます。 要求が適切にエンコードされていません</p> <p><b>修正:</b> vCloud 統合で非 ASCII 文字がサポートされます。</p>

タイトルと QC ID	説明と修正
<p>vCloud 統合内の非 ASCII 文字</p> <p>QCCR1D141413</p>	<p><b>説明:</b> vCloud 統合内では非 ASCII 文字はサポートされません - vCloud は名前に日本語文字が含まれるカタログを作成できません。vCloud オペレーションが入力として日本語文字を受け取ると、次のエラーメッセージが表示されます。要求が適切にエンコードされていません</p> <p><b>修正:</b> vCloud 統合で非 ASCII 文字がサポートされます。</p>
<p>vCloud 統合内の非 ASCII 文字</p> <p>QCCR1D141415</p>	<p><b>説明:</b> vCloud 統合内では非 ASCII 文字はサポートされません - vCloud は説明に日本語文字が含まれる組織を変更できません。vCloud オペレーションが入力として日本語文字を受け取ると、次のエラーメッセージが表示されます。要求が適切にエンコードされていません</p> <p><b>修正:</b> vCloud 統合で非 ASCII 文字がサポートされます。</p>
<p>「イベントログの取得」オペレーションで出力が切り詰められる</p> <p>QCCR1D145014</p>	<p><b>説明:</b> 「Library/Operations/PowerShell/イベント/イベントログの取得」オペレーションの出力にはログ全体は含まれていません。</p> <p><b>修正:</b> outputFormat 入力が追加されました。出力の書式を設定できるため、切り詰められないようになりました。</p>
<p>「PowerShell」オペレーションの依存関係のドキュメント</p> <p>QCCR1D145320</p>	<p><b>説明:</b> 「Library/Operations/PowerShell」オペレーションの環境およびセキュリティ要件の一部はドキュメント化されていません。</p> <p><b>修正:</b> [説明] タブの [メモ] セクションで、環境およびセキュリティの要件に関する情報が更新されました。</p>
<p>「LDAP 検索」および「LDAP 検索の次の結果」オペレーションが 999 件を超えるレコードを返さない</p> <p>QCCR1D145434</p>	<p><b>説明:</b> 「Library/Operations/LDAP/.NET/LDAP 検索」および「Library/Operations/LDAP/.NET/LDAP 検索の次の結果」オペレーションは、999 件を超えるレコードを返しませんが、</p> <p><b>修正:</b> 新しい maxResults 入力を使用すると、取得結果の最大数を指定できます。</p>

タイトルと QC ID	説明と修正
<p>OO Content Pack 8 または OO Content Pack 9 の適用後に RAS ログでエラーが発生する</p> <p>QCCR1D146456</p>	<p><b>説明</b> : OO Content Pack 8 または OO Content Pack 9 の適用後に、%ICONCLUDE_HOME%/RAS/Java/Default/webapp/logs/wrapper.log に次のエラーが記録されます。</p> <p><b>Microsoft.GroupPolicy.Management.dll</b> ファイルには操作が含まれていないため、この例外は無視しても問題ありません。</p> <p><b>修正</b> : この修正は、新規インストールにのみ適用されます。</p> <p>NRAS プロジェクトの build.xml ファイルは、Content Pack のインストーラーで取得する必要のない 2 つの DLL ファイルを除外するようになりました。Microsoft.GroupPolicy.Management.dll および Microsoft.GroupPolicy.Management.Interop.dll です。</p> <p>グループポリシー管理コンソール gpmc.msc が RAS マシン上で利用可能でなければ機能しなくなったオペレーションが 3 つあります。3 つのオペレーションはすべて Library/Operations/PowerShell/Remoting フォルダーにあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• WinRM クライアントポリシーの設定</li> <li>• WinRM サービスポリシーの設定</li> <li>• WinRS ポリシーの設定</li> </ul>
<p>「ファイルから読み込み」オペレーションが空の行を読み込まない</p> <p>QCCR1D146665</p>	<p><b>説明</b> : 「Library/Operations/ファイルシステム/クロスプラットフォーム/ファイルから読み込み」オペレーションは、読み込み中のファイルの改行文字をスキップします。</p> <p><b>修正</b> : readEndOfLine 入力が追加され、改行文字を読み込むかどうかを指定できるようになりました。readEndOfLine が true の場合、読み込んだ文字列に改行文字が追加されません。readEndOfLine が false の場合、改行文字は読み込まれません。</p>
<p>「インスタンスの実行」オペレーションに userData 入力がない</p> <p>QCCR1D147861</p>	<p><b>説明</b> : 「Library/統合/Amazon/EC2/非推奨/インスタンス/インスタンスの実行」オペレーションには userData 入力が含まれていません。</p> <p><b>修正</b> : このオペレーションには userData 入力がオプションで含まれています。</p>
<p>「添付ファイルの読み込み」フローがインライン添付ファイルを認識しない</p> <p>QCCR1D148200</p>	<p><b>説明</b> : 「Library/Operations/Exchange/サンプル/添付ファイルの読み込み」フローは、インライン以外の添付ファイルが存在しない場合に、インライン添付ファイルを認識しません。</p> <p><b>修正</b> : フローが EWS API ベースのオペレーションを使用する場合、すべてのインライン添付ファイルが認識されるようになりました。</p>



タイトルと QC ID	説明と修正
<p>OO Content Pack 7 から OO Content Pack 8 に更新した後、「HTTP クライアントの POST」オペレーションがエンコードエラーをスローする</p> <p>QCCR1D148670</p>	<p><b>説明</b>: OO Content Pack 7 から OO Content Pack 8 に更新した後、「Library/Operations/HTTP クライアント/HTTP クライアントの POST」オペレーションが、URL をサーバーに渡す時にエンコードエラーをスローし、“\”を"%255C"に置き換えます。</p> <p><b>修正</b>: Content Pack 9 では encodeURL ブール値入力が追加されました。encodeURL 入力値が true の場合、特殊文字だけがエンコード表記に変換されます。</p>
<p>「FS マシン間のコピー」オペレーションが、「この名前のファイルまたはディレクトリは既に存在するため、ファイルまたはディレクトリを作成できません」エラーで失敗する</p> <p>QCCR1D148717</p>	<p><b>説明</b>: 「Library/Operations/ファイルシステム/Windows のみ/FS マシン間のコピー」オペレーションは、Windows ディレクトリにあるターゲットファイルを上書きしませんので、「この名前のファイルまたはディレクトリは既に存在するため、ファイルまたはディレクトリを作成できません」エラーで失敗します。</p> <p><b>修正</b>: オペレーションは指定されたファイルを正常に上書きします。</p>
<p>OO 9.00.06 で、「SSH シェル」オペレーションが java.util.ConcurrentModificationException イベントで失敗する</p> <p>QCCR1D149228</p>	<p><b>説明</b>: 9.00.06 の適用後、「Library/Operations/リモートコマンド実行/SSH/SSH シェル」オペレーションが java.util.ConcurrentModificationException で失敗します。このエラーは滅多に発生しません。</p> <p><b>修正</b>: 別のスクリプトが同じホスト上で同時に実行中であっても、オペレーションは正常に完了します。</p>
<p>「仮想マシンのクローン作成」オペレーションで NULL ポインター例外を発生する</p> <p>QCCR1D149303</p>	<p><b>説明</b>: 「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/仮想マシンのクローン作成」オペレーションで、clusterName と dataStore の両方を指定し、hostSystem 入力を空にした場合に、NULL ポインター例外が発生します。</p> <p><b>修正</b>: サーバーへの呼び出しで hostSystem 入力の値が使用されなくなったので、hostSystem 入力を空にしてもオペレーションで例外は発生しません。</p>
<p>「HTTP クライアントの GET」オペレーションで、followRedirects 入力 が true に設定されている場合にオリジナルの URL が返される</p> <p>QCCR1D150541</p>	<p><b>説明</b>: 「Library/Operations/HTTP クライアント/HTTP クライアントの GET」オペレーションで、followRedirects 入力 が true に設定されていると、url 結果には url 入力 で渡した値と同じ値が含まれています。</p> <p><b>修正</b>: すべての HTTP クライアントのオペレーションは、リダイレクト先の最終 URL を返します。</p>

タイトルと QC ID	説明と修正
<p>「メソッドの呼び出し 2」オペレーションがNTLM 資格情報を正しく処理しない。</p> <p>QCCR1D150641</p>	<p><b>説明:</b>「Library/Operations/ウィザード/Web サービス/メソッドの呼び出し 2」オペレーションの認証スキーマとしてNTLM が指定されていると、OO はターゲットサーバーに間違っ資格情報を送信します。</p> <p><b>修正:</b>認証メソッドとしてNTLM を使用した場合でも、username、password、domain の各資格情報が正しく送信されます。</p>
<p>「HTTP クライアント」オペレーションがクエリパラメーターで複数の値をサポートしていない</p> <p>QCCR1D150878</p>	<p><b>説明:</b>「Library/Operations/HTTP クライアント」フォルダーのオペレーションは、クエリパラメーターに複数の値を渡すことができません。特定の名前を持つクエリパラメーターに関連付けられるのは1つの値だけです。</p> <p><b>修正:</b>クエリパラメーターが複数回指定されても、上書きされることはありません。リクエストではすべてのクエリパラメーターが送信されます。</p>
<p>OO Content インストーラーが updates ディレクトリに間違っバージョンパスを作成する</p> <p>QCCR1D151514</p>	<p><b>説明:</b>OO Content インストーラーが updates ディレクトリに間違っバージョンパスを作成します。</p> <p><b>修正:</b>updates ディレクトリに作成されたパスには適切なバージョンが含まれます。</p>
<p>「仮想マシンの作成」オペレーションが失敗する</p> <p>QCCR1D152064</p>	<p><b>説明:</b>「Library/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/仮想マシンの作成」オペレーションは、dataStore 入力がデータストアの場合に失敗します。</p> <p><b>修正:</b>「仮想マシンの作成」オペレーションは、dataStore 入力がデータストアでなくデータストアの場合に仮想マシンを作成します。</p>
<p>OO 9.04 および OO Content Pack 8 への移行後、「メソッドの呼び出し 2」オペレーションが Cookie を渡さなくなった</p> <p>QCCR1D152152</p>	<p><b>説明:</b>OO 9.04 および OO Content Pack 8 への移行後、「Library/Operations/ウィザード/Web サービス/メソッドの呼び出し 2」オペレーションは Cookie を渡しません。</p> <p><b>修正:</b>useCookies 入力が true の場合、「メソッドの呼び出し 2」オペレーションは、あるステップから、それ以降の (useCookies が true に設定されている) すべてのステップに、正しく Cookie を渡します。</p>
<p>「リモートホストからスクリプトのコピー」が有効な入力に対して失敗する</p> <p>QCCR1D152201</p>	<p><b>説明:</b>「Library/Operations/オペレーティングシステム/Linux/スクリプト/リモートホストからスクリプトのコピー」オペレーションが有効な入力に対して失敗し、実行メッセージの "/" が "\" に置き換えられます。</p> <p><b>修正:</b>オペレーションは有効な入力に対して正常に完了し、リモートファイルをコピーします。</p>

タイトルと QC ID	説明と修正
<p><b>Network Automation 9.20</b> のサポート</p> <p>QCCR1D152681</p>	<p><b>説明:</b>「Library/統合/Hewlett-Packard/Network Automation」、「Library/統合/Hewlett-Packard/Network Automation/6.x」、「7.x および 9.x」フォルダーのプロパティに、NA 9.20 のサポートが記述されていません。</p> <p><b>修正:</b>「Network Automation」、「6.x」、「7.x および 9.x」フォルダーのプロパティが更新され、プロセスでの NA 9.20 のサポートが追加されました。</p>
<p>「HTTP クライアント」オペレーションが java.lang.Illegal ArgumentException: data may not be null で失敗する</p> <p>QCCR1D153104</p>	<p><b>説明:</b> Content Pack 9 では、「Library/Operations/HTTP クライアント」オペレーションが、指定された URL 入力のクエリパラメーターが値を持たない場合に java.lang.IllegalArgumentException: data may not be null で失敗します。</p> <p><b>修正:</b>「HTTP クライアント」オペレーションが失敗しないよう、クエリパラメーターに NULL 値を指定できます。</p>
<p>コンテンツが更新され、<b>Network Automation 9.x</b> のサポートが反映されている</p> <p>QCCR1D153163</p>	<p><b>説明:</b>「Network Automation 9.x」オペレーションは「Library/統合/Hewlett-Packard/Network Automation/7.x」フォルダーに含まれていますが、これはエンドユーザーにとってわかりにくい仕様です。</p> <p><b>修正:</b>フォルダーの名前が変更され、「Network Automation 9.x」オペレーションは「Library/統合/Hewlett-Packard/Network Automation/7.x および 9.x」フォルダーに含まれるようになりました。</p>
<p>「SQL クエリ」オペレーションの結果に列区切り文字が存在しない</p> <p>QCCR1D155140</p>	<p><b>説明:</b>クエリの最後の列が Null の場合、「Library/Operations/データベース/Microsoft SQL/SQL クエリ」オペレーションの結果に列区切り文字が含まれません。</p> <p><b>修正:</b>delimitedReturnResult オペレーション出力が追加されました。これは最後の列が Null の場合でも列区切り文字を含みます。</p>
<p>「SQL クエリ」および「次の SQL 行の取得」オペレーションの関係についての記述の改善</p> <p>QCCR1D157784</p>	<p><b>説明:</b>「Library/Operations/データベース/Microsoft SQL/SQL クエリ」および「Library/Operations/データベース/Microsoft SQL/非推奨/次の SQL 行の取得」オペレーションの関係についての記述が明確ではありません。</p> <p><b>修正:</b>「SQL クエリ」および「次の SQL 行の取得」オペレーションのそれぞれの [説明] タブに、2 つのオペレーションの関係についての情報が追加されました。</p>
<p>「オブジェクトの追加」オペレーションを使用するフローが NULL ポインター例外で失敗する</p> <p>QCCR1D158748</p>	<p><b>説明:</b>「Library/統合/Hewlett-Packard/Universal CMDB/オブジェクトの追加」オペレーションを使用するフローは、プロパティ入力 prop が name=CSA_CONSUMER で、追加されたプロパティ (例えば prop1) が organization_type=company の場合、NULL ポインター例外で失敗します。</p> <p><b>修正:</b>「オブジェクトの追加」オペレーションを使用するフローは正常に終了します。</p>